

## 第7巻 水平社を立ちあげた人々 —人間は尊敬すべきものだ—

1922年3月3日、京都の岡崎公会堂に差別されてきた人々が集まり「人間は、差別するものでなく、尊敬すべきものだ」と宣言し、「全国水平社」を結成しました。

この中心人物の一人で宣言の起草に関わったのは西光万吉でした。当時、差別は当たり前のように行われており、万吉も学校でひどいいじめを受け、悩み苦しみました。しかし、支えてくれた仲間たちと「差別をなくすには、自分たち自身が立ち上がらなければ」と、水平社の創立を呼びかけました。呼びかけに応じて九州、四国、関東などからもたくさんの青年が創立大会に参加しました。その中には、当時まだ16歳だった山田孝野次郎もいました。彼もまた病氣と闘いながら各地へでかけ「泣いてはだめだ」と命の限り訴え続けました。

このDVDでは、日本の人権の歴史を大きく変えた水平社創立の背景や、創立大会の様子、そこに参加した人々の想いを、現地や関係者を訪ねて取材し、明らかにしました。自分たちの力で差別をなくそうと立ち上がった人々の姿から学ぶことにより、「差別」や「いじめ」を根絶するため、いま何をなすべきか問いかけます。

**対象単元**

小学校社会科[第6学年](2)ア(コ)  
中学校社会科[歴史的分野]C(1)オ  
小・中学校「特別の教科 道徳」「特別活動」

DVD 本体価格 66000円 (税抜)

- 上映時間 約15分
- 小学生版と中学生以上版を収録
- 解説書・指導案(PDF)付き

※発売時点で、上映時間に若干の変動が生じる場合があります。

## 第8巻 ひとと皮革(かわ)の歴史

「ひと」は、動物の「いのち」と深く関わって生きてきました。ひとの歴史とは、他の「いのち」と深くつながる歴史です。

ひとは、生き物の命を奪い、食べなければ生きていけません。しかし、米づくりが盛んになると、宗教の力を借りて、動物の命を奪うことを残酷とする考えが日本にも広まり始めました。肉の仕事などに関わる人を差別してきた背景には、こうした考えがあり、やがて、そこから部落差別が生まれるのでした。

それでも、動物の命が、人々の生活の周りから消えることはありませんでした。動物の肉や皮、またその皮から作られる「ニカワ」は、筆、墨、家具、履物、医薬品、武具から仏像の接着にいたるまで、人々の生活と密接に関わり、「ひと」の文化を発展させてきたのです。

「死は穢れている」という差別につながる考え方さえも、ほかならぬニカワでできた墨の文字や絵の助けを借りて、社会へ広がっていきました。このDVDでは、皮革製品の製造過程を取材した貴重な映像を通してこうした矛盾を示し、部落差別の愚かさや「いのち」の大切さを考えさせる教材としました。

**対象単元**

小学校社会科[第5学年](2)(3)  
中学校社会科[歴史的分野]A(2)  
小・中学校「特別の教科 道徳」「特別活動」  
「総合的な学習の時間」

DVD 本体価格 66,000円 (税抜)

- 上映時間 約15分
- 小学生版と中学生以上版を収録
- 解説書・指導案(PDF)付き

※発売時点で、上映時間に若干の変動が生じる場合があります。

●お買い上げは……

**北辰映株式会社**

〒 336-0911

さいたま市緑区三室2190-2

TEL:048-810-5277

FAX:048-876-2955

監修: 上杉聰・外川正明

企画: 東映株式会社・上杉聰・外川正明

協力: じんけんSCHOLA

制作: 東映株式会社